

「しかし、今やキリストは、眠った者の初穂として死者の中からよみがえられました。」

Ⅱコリント 15章 20節

すっかり秋らしくなった香港ですが、オリブの皆様方はいかがお過ごしでしょうか？
今月も聖書の言に耳を傾けたいと思います。

I 結局、何を信じるのか

私たち人間は聖書の神様の存在を受け入れる生き方と受け入れない生き方に二分されます。言い換えると人間を越えた、超越的な存在を信じるか、信じないかに分類されると言うことです。このことは、私たちの人生に決定的な影響を与えます。もし、聖書の言う、全知全能にして創造の神様を信じないなら、人間の存在には究極的な意味や目的はないこととなります。ものごとの本質を求めるのは空しいことであり、その日その日の現象や快樂にのみ心を向けるしかないこととなります。戦後はやった J. サルトルの無神論的実存主義は多くの左翼的な学生をデカダンスに導きました。「人生は空しいもので生きる意味を求めることも空しいことである」と言うのがその結論です。

仏教は悟りと輪廻転生と言う教えでこの問題を解消しようとしします。しかし、聖書は人間の存在の深いところから出てくる空しさの原因は人間が愛なる神様を信じることを止め、神様の愛に背を向けた(これを罪と言います)結果、自分自身のルーツを喪失したことにあると言います。ですから、私たちは神様の愛に立ち帰ることが必要なのです。

Ⅱ 復活の希望

冒頭の聖句は人生が空しくならない真の理由を明らかにしています。それは、私たちはイエスキリストが復活したように、やがて復活する時が来ると言うのです。それはちょうど畑の最初の麦の穂が色づくのと他の穂も続々と色づくのに似ています。もし私たちの人生が地上で終わるなら、真の公平と正義はどこに存在するのでしょうか。もし愛が永遠でなければ、私たちは何を信じればよいのでしょうか。しかし、イエスキリストは私たちが父なる神の愛に立ち帰り、永遠の神の国に生きるために復活されたのです。ここに私たち人間の最大の希望があります。

イエスキリストの遺骨は存在しません。墓は空でした。この復活の希望がガリラヤの漁師上がりのペテロたちを揺り動かし、結果的として、今日世界中にクリスチャンが存在するのです。私たちは確信します。人生は決して空しくはない。今の苦難には必ず意味がある。まだイエス様を信じるに至ってなくとも私たちの心からの祈りを天の父なる神様は必ず受け止めて下さる、神様は私たちの困難に逃れの道を備えてくださると。

自分を超越した聖書の神を信じる時、自分が空しくなり、生き詰まっても、人生を投げ出さなくても良くなるのです。イエスキリストの復活を信じることから私たちの罪が赦され、永遠のいのちに与り、永遠の愛の支配する神の国への希望が生まれるのです。復活と天国を信じる信仰から意味のある、平安と希望にあふれた人生が始まります。